

駅周辺環境整備事業における記憶遺産プロジェクトの試行

—JR 柳ヶ浦駅周辺の変遷に着目して—

日大生産工 〇清水 俊樹 日大生産工 永村 景子
日大生産工(院) 大森 真央 日大生産工(院) 菊地 健司

1 背景・目的

近年、我が国では多くの地方都市で人口減少や高齢化が進んでいる。そうした背景の中で、地域の活力を維持すると共に、生活機能を確保した上で高齢者が安心して暮らせる拠点の形成と地域公共交通による連携強化が必要とされている。本研究の対象地である大分県宇佐市は、同様の課題を抱える地方都市である。宇佐市では、この課題に対応すべく、当地域の玄関口であるJR柳ヶ浦駅を中心とした拠点の形成に向け、駅周辺整備事業に取り組んでいる。

本研究室は当該事業において、市民参画のコーディネートを担当している。本研究は、地域活力向上に向けた駅周辺整備における市民参画手法として、「記憶遺産プロジェクト」の提案・試行を目的とする。具体的には、対象地域の変遷や古写真、記憶などを掘り起こし、整理・記録・共有した試行プロセスを省察する。

2 記憶遺産プロジェクトの概要と研究方法

(1)記憶遺産プロジェクトの考え方

記憶遺産の語源はユネスコが実施する「Memory of the World」から来ており、手書きの原稿などの対象物を記録物として意図的に「文書化」したものであり、その記録自体のことを指す。

一方筆者らは、本研究外とする「記憶遺産」では、記録することに重点を置くだけでなく、一般市民の「記憶」を重視するべきであると考えている。本稿にて示す記憶遺産プロジェクトは、柳ヶ浦駅に関する歴史や地域住民の記憶を掘り起こし、整理・記録、共有するものである。

(2)記憶遺産プロジェクトとは

地域の歴史・文化を明らかにするだけでなく、失われつつあった地域の「記憶」を呼び起こし、次世代へ継承する一手法としたものを記憶遺産プロジェクトと称する。一般市民が歴史・文

化的価値を理解し、利用価値を見出すことで、共感・共有という形でプロジェクトの成功につながると考えられる。

筆者らは、一般市民が共有・共感できるような「地域にとっての価値」に重点を置いている調査対象が暮らしの中で身近な存在であったかなどの情報が一般市民の「記憶」を辿ることで明らかになると考えている。

(3)研究方法

本研究では、大分県宇佐市の拠点形成に向け、駅周辺整備計画が行われている JR 柳ヶ浦駅を対象地として、記憶遺産プロジェクトを試行・検証することを目的としている。駅周辺地域の変遷情報や、古地図・古写真などを用いた市民参加型ワークショップ(以下、市民 WS という)形式での調査、地元の古老等へのヒアリング調査、それらの調査結果を駅周辺整備事業への還元するプロセスを実施し、省察する。

本研究で実施する試行プロセスは主に3種類である。①文献調査を行い、古写真を集めると共に、変遷として調査する。②文献調査によって得られた資料を用いて、市民 WS の場で活用し、記憶を掘り出す。③地元の古老らにヒアリングを行い、文献調査では把握できない出来事や記憶の追加や、不明な点を補完する。3種類の試行プロセスを同時進行で相互に参照しながら実施することにより、「地域の記憶」を詳細に記録する。

3 研究対象地

本研究では大分県宇佐市の JR 柳ヶ浦駅周辺を対象とする。JR 柳ヶ浦駅は本市の玄関口であると共に、県北地区の交通結節点という立地条件を活かし、マスタープランの中で

Trial Implementation of "Memory of the Region" which is an Approach
for Citizen Participation

Toshiki SHIMIZU, Keiko NAGAMURA, Mao OMORI and Kenji KIKUCHI



写真-1 柳ヶ浦機関庫 (文献-3参照)



写真-2 市民WSの様子 (筆者撮影)

表-1 JR 柳ヶ浦駅周辺の変遷 (筆者作成)

西暦 (年号)	日付	概要
1897 (M30)	9月25日	柳ヶ浦線が柳ヶ浦まで延び、長洲駅として開業された。
1898 (M31)	3月1日	宇佐駅に改称された。
1901 (M34)	6月1日	豊洲鉄道が九州鉄道株式会社に合併。
1906 (M39)	9月9日	豊洲鉄道株式会社柳ヶ浦機関庫が設置された。
1907 (M40)	6月1日	日帝国鉄道庁の所屬となり、国有鉄道となった。
1909 (M42)	10月15日	柳ヶ浦駅と改称、路線延長され現在の宇佐駅ができた。
1911 (M44)	1月21日	柳ヶ浦駅は途中下車駅に指定された。
1924 (T13)	12月3日	第二ホームの待合所が改築された。
1925 (T14)	4月4日	駅等級は廃止となった。
1928 (S3)	1月15日	第二ホームの便所を撤去。
1939 (S14)		小松橋が掛けられた。
1941 (S16)	7月16日	側線2・3番線新設。
	12月20日	橋テーブル2番線の増設。
1942 (S17)	3月6日	第一番、第二、四番線番線の増設
		客車留置場、2番線の増設
1944 (S19)	2月15日	海軍引込線が完成
1946 (S21)	3月1日	戦後に大分検車区柳ヶ浦出所が市区と改称された。
1947 (S22)	9月25日	鉄道開通50周年で祝賀式典を行った。
1949 (S24)	6月9日	天皇陛下が下車された
	12月24日	東部の構内が拡張された
1951 (S26)	2月14日	待合室が改修され拡張された。
	8月17日	駅前広場に照明用電灯が新しく設けられた。
	12月17日	下りの乗降場に舗装とアッシュが敷かれた。
1954 (S29)	3月3日	跨線橋上家・便所の新設改築が行われた。
1956 (S31)	8月27日	放送設備が竣工された。
	11月19日	構内に高さ20mの照明塔ができた。
1957 (S32)	5月8日	踏切接近サイレンが新設された。
1958 (S33)	12月18日	第二ホームに弘済会出店が新設営業を開始した。
1962 (S37)	7月25日	駅舎留置場に移転した。
	9月28日	駅舎新築の工事開始された。
1963 (S38)	1月24日	鉄筋コンクリートとして駅舎が建て直された。
	6月1日	特急みづほが新設された
1965頃		昭和40年代初期に機関庫が解体される
1966 (S41)	10月24日	駅前舗装に着手
	11月4日	舗装が完成
1967 (S42)	7月	電化によってホーム延長
	10月1日	柳ヶ浦機関庫は廃止され、大分運転所柳ヶ浦支所が発足し、機関区も編入された。
1971 (S46)		機関区線が撤去された。
1984 (S59)	3月31日	柳ヶ浦運送支所が廃止された。
1987 (S62)	4月1日	九州旅客鉄道株式会社、柳ヶ浦駅となる。
1988 (S63)	3月13日	検査列車数が6本から13本に改定された。
1990 (H2)	9月1日	組織改定により大分支店が大分支となった。

も北部交流拠点の形成に取り組んでいる²⁾。

また、当時の柳ヶ浦駅は明治時代より機関庫が存在し、機関庫が通っていたと共に機関庫(写真-1)が存在していた。昭和には戦争に利用された歴史や、終戦後に天皇巡幸の際にご下車されたという対象地としての歴史や、市民としての思い出が存在する地域である。

4 施行プロセスの実施及び経過報告

(1) 文献調査

国立国会図書館や宇佐市の図書館などの文献調査を主に行った。調べた大まかなものとして(表-1)のように年表にまとめていった。昭和20年以前はほとんどの改修などが行われていなかったが、昭和24年の天皇巡幸以降は頻繁に改修が行われている事がわかった。

(2) 第一回市民ワークショップ

ワークショップの形式としては、前半は(写真-2)のように古写真や古地図を展示し、市民の方々のつぶやきや思い出を「記憶」として収

集して記録した。後半においては、3班に分けてテーブルごとにファシリテーターを配置しグループワークを行った。(表-1)の年表にもある通り、柳ヶ浦駅の運営は国有鉄道からJRに変わった。それによって思い出の違いが生じたという意見が挙がったため、具体的に調査を行う必要があると判明した。

(3) ヒアリング調査

初回ヒアリングとして、柳ヶ浦にお住まいの現在99歳の松尾様にヒアリング調査を行った。当時は新しい小松橋が完成時、古い小松橋が残っていたことや、天皇巡幸以前はそれほど賑わっていなかったなど、新しい情報が収集された。また、昭和30~40年の時期が賑わいのピークようで調べるべき時期もみえた。

5 まとめ

今回、文献調査によって整理を行い、ワークショップの場で共有という形で試行したが、文献に存在しない情報の収集や、どの時代に焦点を当てる必要があるのかなどの方向性が明確化することができた。また、ワークショップの課題として、情報を収集する目的や、何に活用するかということが、市民の方々の目線では不透明であり、うまく情報を収集できなかったという反省を活かす必要がある。

「参考文献」

- 1) 永村景子・辻喜彦・高尾忠志・大森真央, 系譜調査を応用した「記憶遺産プロジェクト」の可能性, (2017)p.1-3
- 2) 宇佐市, 都市計画マスタープラン, (2012)p.72
<https://www.city.usa.oita.jp/uploaded/attachment/3028.pdf>
- 3) 宇佐市, 柳ヶ浦機関区 昭和40年,
<http://www.usa-public-library.jp/cgi-bin/digital/index.cgi>